

ふくい

「誇りと夢」プラン

—— 市民とスクラムを組んでふくいの未来を創造します。

2006年2月

27万市民と坂川まさるの約束

「市民の、市民による、市民のためのマニフェスト」

・・・27万市民と坂川まさるの約束

私の政治信条は「愛と責任」「誇りと夢」です。

日本は今、少子・高齢化や人口減少の時代を迎え、地方を取り巻く環境はさらに厳しさを増しています。合併後の新福井市の財政も予断を許しません。また、身近なところでは災害や犯罪が起これ、地域の安全も揺らいでいます。

私は福井市に生まれ、福井市に育ち、とことん福井にこだわって、政治の場で頑張ってきました。このような時代だからこそ、「使命感」と「情熱」、「行動力」を持ち、掲げる政策を誠実かつ着実に、責任を持って実行します。県議会議員6期を勤めた経験とネットワークを生かし、**県や他市町としっかり連携します。**

そして何より、市民一人ひとりが主人公となり、自立する市民の大きなスクラムにより新しい福井市をつくり上げていくため、私が先頭に立ちます。

私は、「愛」と「責任」をもって、市民が「誇り」と「夢」を持つことのできる福井市を実現します。今回、市民の皆さんと共に、新しい福井市をつくるための政策集（マニフェスト）を、**ふくい「誇りと夢」プラン**としてまとめました。これは、市長選を通して27万人の市民と私が結ぶ約束です。

なお、この政策集は、市の施策や事業のすべてではありません。継続すべきは継続し、見直すべきものは大胆に見直し、また、新たな課題には市民とスクラムを組み合わせながら、「スピード」と「決断」をもって対応していきます。

1 「地域力」アップ

P 1

- “高感度コンパクトシティ” へ
魅力ある都市の再生 —新幹線を生かせるまちづくり—
「里地、里山、里川」を地域の顔に —ぬくもりと活力あふれる地域づくり—
だれもが「歩きたくなる街」に —歴史が息づく「公園都市」づくり—
- 災害に強く、みんなでつくる「安心」「信頼」のまち
安心して暮らせる社会を

2 「産業力」アップ

P 6

- 「^{せんと}織都」から未来へ
モノづくり“アジアNo1”へ —デザインする。売る。喜ばせる。—
- 力強い農林水産業
信頼で伸ばす「食・住」産業 —キラリと光るふくいの農山漁村—
- 食と長寿。観光
海の幸、山の幸でふくいをアピール
- 「販路拡大」総力プロジェクト
発信力強化で、世界に広がる「ふくいの優れもの」
- 明るく、いきいきと働ける環境づくり
働く喜びを —夢と希望がかなう社会—

3 「人間力」アップ

P 10

- 安心子育て応援都市
子どもは地域の宝、ふくいの宝
- 家族のきずな、地域の教育力
「ビタミンi(愛)」を子どもたちに
おじいちゃん、おばあちゃんの元気は地域の元気 —伸ばそう「健康寿命」—
郷土教育で子どもたちに「誇り」を —^{ふるさと}地域ではぐくむ^{ふるさと}郷土愛—
- 夢をはぐくむ、楽しい学校
個性と能力、豊かな心

プラン実現のために —スクラム、オープン、改革—

P 14

- 市民とスクラム
市民が主人公
県・周辺市町とのスクラム
- オープンな市政
活力みなぎる、ひらかれた市政を
- 改 革
健全財政、効率的な市政を

1 「地域力」アップ

○ “高感度コンパクトシティ” へ

魅力ある都市の再生 —新幹線を生かせるまちづくり—

福井市は、これまでの取組みにより、全国有数の都市基盤をつくり上げてきました。これらを最大限に活用し、中心部の「にぎわい」、郊外での「やすらぎ」をめざしたまちづくりを進めています。また、歴史や伝統・文化などの地域の宝をまちづくりに生かします。

そして、福井市全域がムダのない、魅力ある、誰もが住みたくなる「高感度コンパクトシティ」を実現します。

北陸新幹線の開業は、福井市の将来にとって極めて大きな意味を持ちます。福井駅までの一日も早い開業が実現するよう、強力に運動を展開します。また、東京から2時間40分と約50分の時間短縮効果や、豊かな自然や食、快適な住環境を生かして、産業や観光の振興に努めます。

- 北陸新幹線福井駅までの一日も早い開業、大阪までの全線開通が実現するよう、新九頭竜橋や区画整理など新幹線と道路との一体的な整備を進め、県や沿線市町、経済界と共に強力に建設促進運動を展開します。
- 新幹線開業の効果を100%生かした、首都圏、関西圏との連携、交流を見据えたまちづくり、観光振興ができるよう、今後10年間をめどとしたプログラムを18年度中につくり、着実に実行します。
- 新幹線から在来線・私鉄・バスまで、市民が新幹線をより便利に使える総合的な公共交通ネットワークを整備します。
- 県都の顔、福井市中心部の核となる福井駅西口周辺では、県と力を合わせ、西口駅前広場の整備や西口中央地区の再開発を進めていきます。
 - ・西口駅前広場は、地元との合意を得て本格的なバスターミナルを整備し、タクシーやマイカーも使いやすくなるようにします。また、障害者やお年寄り、子どもまですべての人が使いやすくなるようバリアフリー化します。
 - ・西口中央地区は、商業施設、住宅、都市型ホテル、公共施設が入る再開発ビルの建設を、地元、経済界、県と力を合わせて推進していきます。
- 福井駅のJR・新幹線高架下の空間については、18年度前半には利活用策をまとめ、整備に着手します。
- 市街地の整備は、拡大から成熟に方向を転換します。現在進めている土地区画整理事業は、計画どおり進めます。
- 福井駅前の中心市街地活性化基本計画を見直し、商業、福祉、医療、文化などの様々な都市機能を集約し、市民が集い、誇りの持てるまちづくりを進めます。
- 介護付きマンションなど高齢者にやさしい住まいづくりや、美しくやすらぎのある住環境を整備するなど「まちなか居住」を促進し、中心部の定住人口を1割アップします。

- 商店街やNPOなどが主体となった中心市街地の賑わいづくりを支援するため、規制の緩和や手続きの簡素化に努めます。
- 若者との対話の場を通じ、オープンカフェやストリートライブ、ストリートスポーツなど若者の意見やアイデアを生かした「若者が街を楽しめる」まちづくりを支援します。また、元気なお年寄りが、「お洒落して歩きたくなる大人のまち」を創造します。
- 「女性まちなかウォッチャー」（100人）を委嘱し、女性の優れた感性を生かした、人に優しいまちづくりを推進します。

<コンパクトシティとは>

市街地の拡散を抑さえ、自動車に極度に依存しない交通体系を維持し、歩行による生活圏が確保された都市を意味します。

人口減少時代においては、地域コミュニティを重視し、社会基盤が整備されている中心市街地を核に、既存の都市機能を効率よく活用した、持続可能なまちづくりが求められます。

「里地、里山、里川」を地域の顔に ―ぬくもりと活力あふれる地域づくり―

福井らしさを形づくっている里地、里山、里川は、貴重な自然資産であり、福井市民の心のふるさとです。これらを保全・活用し、子孫に引き継いでいきます。

4市町村が合併した今、「地域の顔」＝「地域らしさ（個性）」となるのは、それぞれの地域の里地、里山、里川です。美山、越廼、清水をはじめとして、各地区の「らしさ」を象徴する里地、里山、里川をさらに磨き、後世に残す地域づくりに取り組んでいきます。

- 市と県、経済界、学識経験者がまちづくりを議論する「地域力アップ委員会」と、まちづくりに幅広い市民の意見を反映する「市民100人委員会」を創設します。この両委員会でまちづくりをけん引します。
- これまでの「うらがまちづくり事業」や「夢・創造事業」の中で培われてきた地域の知恵と力を原動力に、美山、越廼、清水地区を含めたすべての地区で、地区の特色を生かした住民主体のまちづくりを支援する「誇りと夢・わがまち創造事業」に取り組みます。
- 福井の風土に培われた景観を守り育てます。伝統的な建築物の保存、活用（50軒）を奨励する制度をつくります。また、各地域に息づく芸能や祭りを伝承し、地域づくりにつなげます。
- 住民自らの手による身近な河川環境や景観を守る活動を推進するため、ワークショップなど市民が参加できる場をつくります。「里川」での水と触れ合う活動を、教育や福祉に活用します。
- 自然と共生する川づくりを進めます。足羽川の桜並木は「不死鳥のさくら堤」として保存・延伸するとともに、市民が維持管理に協力する「桜守」（100人）を育成します。水に親しむ空間を整備し、屋形船を浮かべるなどして観光にも役立てます。
- 「さくら通り」の桜並木を東西に延ばし、「さくら通り（NHK前）」「さくら堤（足羽川）」「さくら山（足羽山）」をつないだ「さくら回廊」とします。また、一乗谷朝倉氏遺跡までを全国に誇れる「さくら街道」として整備するとともに、美山、越廼、清水の各地区のシンボルとなるような「さくら街道」を整備します。
- 主要道路に各地区の「らしさ」を生かした草木を植える街路づくりを進め、桜、菜の花、ショウブ、アジサイ、コスモス、越前水仙といった四季をいろどる街並みを創造する「ガーデンシティふくい」をめざします。
- 平成21年に開催される「第60回全国植樹祭」のメイン会場を福井市に誘致し、災害に強い森づくり、川づくりを考える機会とします。

だれもが「歩きたくなる街」に —歴史が息づく「公園都市」づくり—

福井城址をはじめとして、養浩館庭園、北の庄城址などの歴史を生かしたまちづくりを進めます。築城400年を迎える福井城址については、市民の手により「巽櫓」の復元を考える活動も行われています。早急に民間からの寄付の受け皿づくりをするなど、復元への気運を盛り上げていきます。

また、新幹線、電車、バス、自転車、そして歩行者をスムーズに結びつけ、誰もが気軽に街へと出かけられる交通環境をつくります。特に、福井に残された貴重な資産「路面電車」を、より使いやすく美しい「LRT」に進化させ、福井のシンボルにします。また、「健康長寿」につながる自転車の利用を促進していきます。

- 将来想定される県庁舎改築は、移転を前提に、福井城址を「公園都市」の顔とするためのビジョンを18年度中に作成します。県民会館の跡地を利用した中央公園の拡張や御廊下橋の復元など、福井城址、福井神社を生かした市民が歴史の中で憩える場を、県と連携しながら整備します。
- 住んでも歩いて楽しめる、歴史と文化を生かしたまちなか景観づくりを進めます。市内各地に散策ルートを整備し、誰もが楽しく歩いて健康づくりができるようにします。
- 市民と共に、電車・バスの低床化やダイヤ・路線・料金体系などについて考え、駅・バス停などを整備して、子どもも、お年寄りも、障害を持つ人も気軽に出かけられるよう利便性を向上させます。
- 路面電車にLRT（低床の新型車両）を導入し、福井鉄道、えちぜん鉄道の相互乗入れにより、まちなかへのアクセスや移動を便利にします。また、新駅建設や路面電停の改善により、利便性向上と乗客増をめざします。
- LRTの導入に当たっては、車両や電停のデザインに市民の意見を取り入れ、「福井のシンボル」として大切に育てます。
- 地域交通のあり方を市民ぐるみで考えるため、自家用車通行を制限して公共交通や自転車、街歩きの楽しさを実感するイベント「カーフリーデー」を実施します。
- 自転車を利用しやすい道づくり、まちづくりの「自転車マスタープラン」を18年度中に策定します。「市民サイクリング大会」を開催し、自転車を通して市民が交流する機会を設けます。

○災害に強く、みんなで作る「安心」「信頼」のまち

安心して暮らせる社会を

戦災、震災からの復興を経て60年、一昨年の福井豪雨によって自然災害への備えの重要性を実感しました。

災害に強い社会基盤の整備、速くて正確な情報伝達はもちろん、家族や地域コミュニティの助け合いによる信頼社会をつくることで、市民の「安心」を支えます。

- 自主防災組織を18年度中にすべての地区で整備するよう支援し、地域コミュニティの力で市民の「安全・安心」を確保します。また、地域の自主的な訓練を積極的に支援します。
- 6月28日から7月18日までを「みんなで防災を考える20日間」とし、震災、水害の教訓を次世代に伝えるとともに、防災・減災のあり方を考える機会にします。
- 足羽川、九頭竜川、日野川の流域を構成する市町と住民、国、県が一堂に会する「流域連携会議」の開催を呼びかけ、河川の環境保全や防災などについて協議します。
- 国や県と協力し、分かりやすいハザードマップづくり、洪水被害地域を拡大させない土地利用対策など、都市型水害への対応を進めます。
- 遊水地や道路、公園、駐車場の地下などでの雨水貯留（40,000m³）を進め、環境に配慮しながら水害の発生を予防します。
- 福井豪雨の再来にも耐えうるよう、国や県と協力し、足羽川や足羽川ダムの整備を進めます。整備に当たっては、災害に強いだけでなく、環境と共生する治水対策を進めます。
- がけ崩れや土石流など土砂災害から市民を守りつつ、海岸の侵食を防止するため、山から海まで流域全体において適正な土砂の管理を行います。また、間伐や植林により山林の再生を図ります。
- 公共施設の耐震対策を進めるとともに、民間の建物の耐震診断、改修を後押しします。
- 高齢者や体の不自由な人の世帯の除雪をスムーズに行えるよう、全国に先駆けて、ボランティアなどのマンパワーを活用する「除雪アクションプラン」を18年度前半に作成し、実施に移します。心のきずなで雪を克服するまちの実現に向け、地域、企業、行政がスクラムを組んで除雪活動を行う「市民一斉除雪デー」を展開します。
- 市民の協力も得て歩道の除雪、通学路の確保を徹底します。
- 国や県と連携し、主要道路への融雪装置の整備延長を1割アップします。新しい融雪技術を公共施設などで活用できるよう、積極的に検討します。

2 「産業力」アップ

○「^{せんと}織都」から未来へ

モノづくり“アジアNo.1”へ ーデザインする。売る。喜ばせる。ー

かつて「繊維」は福井が世界に誇る産業でした。福井の名前を全国にとどろかすブランドであり、市民の誇りでもありました。

そのものづくりの伝統と技術を生かし、県と強い連携を保ちながら、創造的な21世紀型の力強い産業を創出・育成していくことで、税収のアップにもつなげます。

- これまでの「地域産業創造会議」の取組みを発展させ、福井が持つものづくりへの情熱や技術を基に、企業や大学、市民との多様な連携を促進し、付加価値の高い産業を創出するため、人材育成や新技術・商品の開発、販路開拓をバックアップします。
- 繊維の優れたコレクション集めた「織都ミュージアム」を福井駅周辺に設置し、「織都」の象徴にします。
- 福井のものづくり産品を一堂に集め、多くの人に気軽に見てもらえる「福井ショップ」を福井駅前につけます。
- クールビズやウォームビズへの県産織物の活用など、「福井産品愛用運動」を進めます。
- 新しいビジネス分野への事業拡大、事業の効率化に直結するIT（情報技術）をあらゆる産業分野で導入・活用できるよう、IT人材を積極的に育成します。
- 女性の優れた感性や知恵を、商品やデザインの開発、販売などのビジネス分野に生かせるよう、女性向けの「インキュベートオフィス」「展示スペース」を提供します。
- 「田舎へ帰農。駅前で起業」を合言葉に、駅前を中心とした地域で居住空間を含めた起業支援のためのスペース（50店舗）を提供し、「エンゼル資金」などの支援制度を設けます。
- 駅周辺の空き店舗を、試作品の展示・販売などを行う「実験ショップ」に提供し、ショッピングと融合したものづくり創造エリアとします。また、意欲のある若者が出店、チャレンジできる「インターンショップ」を提供し、県内外から若者誘客を進めます。
- 商店街の「一店一品運動」などを踏まえ、各地域の特色を生かした商店街づくりを進めます。

○力強い農林水産業

信頼で伸ばす「食・住」産業 —キラリと光るふくいの農山漁村—

農林水産業は、「食」や「住まい」など、わたしたちの生命や生活に直接かかわる重要な産業です。

安全性、快適性が求められるこれからの時代、消費者の「信頼」を勝ち取ることのできる、福井ならではの「顔」が見える農業・林業・水産業を、これまでの基盤を十分生かしながら、力強く伸ばしていきます。

- 市街地周辺に広がる田園地帯は、圃場整備の進んだ豊かな農地に恵まれています。この基盤を生かし、経営規模の拡大などを通じて生産性の高い米づくりを進めるとともに、野菜や越前水仙など高収益につながる園芸品目の生産を支援し、農業生産額を1割アップします。
- 中山間地域の農業は、過疎化、高齢化により担い手不足が深刻化しています。県と連携して、新規就農者を確保、育成するための相談会、研修会を実施します。「団塊の世代」の「定年帰農」を受け入れるための環境整備、情報発信にも積極的に取り組みます。
- 生産者や生産地など、「顔」が見える安全でおいしい食材を消費者に提供するため、通信販売や外食・中食産業とのマッチングを進めるなど、「食」の販路拡大や情報発信を積極的に支援します。
- 住民主体のファーマーズマーケット、特産品づくりを支援する「まちづくりファンド（基金＋人的支援）」を創設し、おじいちゃん、おばあちゃんの活躍の場（20か所）をつくり出します。
- 市の公共事業への地元産材の活用を進めるとともに、県や森林組合と連携して、山林から出る間伐材の有効利用を進めます。
- 意欲ある漁業者グループが開発した、新たな水産加工品の販路拡大を支援するとともに、県外から多くの観光客を呼び込むため、市のホームページ、メールマガジン等を活用し、情報を積極的に発信します。

○食と長寿。観光

海の幸、山の幸でふくいをアピール

観光は、これからの産業の大きな柱です。福井には無限の可能性を秘めた多くの資源があります。かつて、「宝さがし」運動により身近な地域の宝が多く見いだされましたが、これらを磨き上げ、結びつけることで、大きな魅力になると思います。

北陸新幹線の福井駅までの開業が実現すれば、観光客やビジネス客を招き入れる環境が整います。「食」と「長寿」を大きな武器として、県外から多くの人たちを呼び込みます。

- 市役所に「観光戦略局」を新設し、18年4月に発足予定の福井観光コンベンション協会とも連携しながら、私が先頭に立って総合的な観光戦略を推進します。
- 福井が誇る海、山、里の「食」の素材と「長寿」を結びつけ、魅力ある観光・滞在プランをつくって誘客し、観光客数の1割アップをめざします。市内各地の観光資源を再発掘し、あらたな観光ルートを開発します。
- 福井駅周辺に「そば横丁」「地酒ゾーン」「海の幸・山の幸ゾーン」など、福井の豊かな食文化を県内外にPRし、販路拡大につなげる拠点整備を支援します。
- 市内の観光スポットを結んでルートを設定し、「ふくいまちなか観光」を充実します。
- 都市住民が、地方生活を楽しむ「二地域居住」や、週末に農村、農業生活を楽しむ「週末帰農」のニーズが増えています。都市住民を受け入れるための体制、環境を整備します。
- 都市住民をターゲットにした滞在型のエコ・グリーンツーリズムを推進するため、住民が主体となった受入れ体制づくり（農家民宿10軒）を支援します。
- 市民と共に、全国に誇れる福井の夜景づくりを進めます。また、福井の宝である足羽山を自然に親しめるよう整備し、夜景を眺望できるスペースを設けます。
- 一乗谷朝倉氏遺跡の「世界遺産」登録を目指し、条件整備を進めます。また、春の桜、秋の紅葉など、観光客が四季折々に楽しめるよう、史跡の発掘整備、谷全体の環境整備を進めるとともに、一乗谷川を歴史、自然と共生する河川として整備します。
- 県が整備を計画している陽子線がん治療施設とふくい健康の森、みらくる亭、さらには周辺の永平寺など、「先端医療」と「やすらぎ」を組み合わせた滞在型の「癒しの里プロジェクト」を進め、将来的にはアジアのメディカルセンターをめざします。

○「販路拡大」総力プロジェクト

発信力強化で、世界に広がる「ふくいの優れもの」

福井のおいしくて安全な農林水産物や加工品、優れたものづくり産品を、国内外に売り込む販路の拡大戦略が重要です。

市長自らが先頭に立つのは当然、官民挙げての組織力で福井産品の販路開拓、情報発信に全力で取り組みます。

- 福井で開発された商品を市が積極的に活用し、市役所をアンテナショップとして「ものづくり文化都市」を全国に発信します。
- 民間経験者などを登用し、市役所に販路拡大、情報発信のための部署「マーケット開発局」を新設します。
- 21世紀はアジアの時代です。福井は環日本海の中心にあり、その地理的な優位性を生かした中国などアジア地域への販路拡大を強力に支援します。また、東アジアからの観光誘客（20,000人）を積極的に推進します。

○明るく、いきいきと働ける環境づくり

働く喜び —夢と希望がかなう社会—

福井の活力を支えているのは、働く人たちです。額に汗して働く市民が、自分の将来、家族の将来に「夢」と「希望」を持って、一生懸命努力していくことが報われる社会を実現します。

市民が意欲を持って、いきいきと働くことのできる環境づくりのために、最大限努力します。

- 労働界とのトップ会談や、企業、事業所で働く人たちと市長の対話を実施し、明るく、いきいきと働ける環境づくりを進めます。
- 退職期を迎える「団塊の世代」が培ってきた技能、ノウハウを地域産業の中でしっかりと継承・発展させていくため、「熟年人材バンク」を創設し、「団塊の世代」の再就職と次世代への技能継承を積極的に支援します。
- 退職期を迎える「団塊の世代」が中心となったNPOなどに、まちづくりやお年寄りのケアなど公的な業務を開放し、継続的に活動できるよう応援します。

3 「人間力」アップ

○安心子育て応援都市

子どもは地域の宝、ふくいの子

子どもは社会の宝です。子どもを産み育てることは本来、最大の喜びです。できるだけ多くの子どもが生まれることが、地域社会の活力を維持するためにも大切です。

共働きの多い福井では、家族が、地域コミュニティが、そして企業が、みんなで子育てを応援し、子どもを産み育てることを喜びにできるようにします。

私が先頭に立ち、男性の「家庭回帰」、女性の「職場復帰」を市民各層に訴え続けていきます。

- 「子育て応援企業」（100事業所）、「子育て応援の家」（1,000軒）などの登録制度を設け、子育てを積極的に支援します。企業の子育て応援意欲を高めるため、市の業務への参加において優遇制度を導入します。
- 市役所に、市民が利用できる委託などによる託児所を設け、小さな子どもを持つお父さん、お母さんが安心して働けるようにします。
- 育児・介護に疲れたときに、お父さん、お母さんが休息を取れるよう、一時的なサポートを行う「地域助け合いビジネス」などを積極的に支援します。
- 育児や家事について父親が学ぶ「子育てパパカレッジ」（年間250人）を開設し、家族みんなでの子育てを応援します。
- 育児サークルの親子や子育てマイスター（達人）などが集う「子育てカフェ」（10か所）を開設し、子育てに関する情報交換ができる場を整備します。
- 一時保育や家事代行など、子育て家庭の負担を軽減する「すみずみ子育てサポート」の実施団体を増やし（10団体）、利用者数を倍増します。
- 産前産後のお母さんの不安感を減らすため、「子育てママダイヤル」を設け、電話相談体制を強化します。
- 「放課後児童クラブ」の実施箇所を増やし、“小学校区に1つ”確保します。

○家族のきずな、地域の教育力

「ビタミンi（愛）」を子どもたちに

次代を担う子どもたちの教育の原点は、「家庭」です。子どもたちをすこやかに育てる最も重要な“心の栄養素”を「ビタミンi（愛）」として、家族の触れ合い、語らいの時間を持つ運動を展開します。

また、家庭や地域、学校を舞台に、“体の栄養素”である食を重視する「食育」を効果的に推進します。

- 家庭で子どもとふれあう「家族ふれあいタイム倍増キャンペーン」を展開します。
- 子どもたちの自立する力を育てるNPOなどの活動を支援します。また、子どもたち自らが考え、成長していくための力となる、文化、スポーツ、地域活動などの取組みを支援します。
- 地域の大人と子どもが日常的に交流する場を設け、地域の見守り力を高めます。
- 子どもの安全を守るため、約1万5千人の小学生全員に防犯ブザーを配布します。また、子どもたちが事件や事故に巻き込まれないための指導を、さらに徹底します。
- すべての小中学校で、10品目以上の地元産食材を用いたおいしい学校給食を実施し、豊かな「食育」を進めます。

おじいちゃん、おばあちゃんの元気は地域の元気 —伸ばそう「健康寿命」—

福井市では、65歳以上の老年人口の割合が約2割、2030年には3割以上に増えると予測されています。本格的な長寿社会が到来する中、おじいちゃん、おばあちゃんが健康で、生きがいを持ち、長寿をまっとうできる地域社会をめざします。

一方、若い世代の健康状態に警鐘が鳴らされています。早い段階から生活習慣を改善し、健康で長生きできるよう対策を強化します。

- 地域における長寿社会のサポート事業「自治会型デイホーム」（小学校区に1か所）を設けるなど、地域と行政がスクラムを組んで、やさしさとぬくもりある施策を実施します。
- 元気なおじいちゃん、おばあちゃんが交流する拠点として、空き家などを活用した「よろず茶屋」（50軒）を設けます。また、経験を生かしてまちづくりに一役買ってもらう「シルバーパワー活用制度」をつくります。
- おじいちゃん、おばあちゃんが長い人生経験の中で培ってきた知恵や技能などを、子や孫の世代に継承していくための交流の場「はつらつ伝承塾」を設け、地域のために活躍、貢献できる機会をつくります。
- 「健康寿命を伸ばそう」を合言葉に、県や医療機関と連携しながら、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）など生活習慣病の予防、早期発見に向けた生活改善指導、基本健康診査（受診率10%アップ）を強化します。

ふるさと 郷土教育で子どもたちに「誇り」を —地域ではぐくむ郷土愛— ふるさと

福井市は、歴史や伝統・文化、豊かな自然に恵まれています。こうした地域の宝を教材に、子どもたちが地域を学び、郷土への愛着や親しみを持ち、それが郷土への「誇り」につながる教育を実践します。

- 由利公正、橋本左内ら郷土の偉人の生き方や気概を学び、ふるさとの誇りが持てる教育を展開します。
- 平成19年に即位1500周年を迎える郷土の偉人「継体天皇」の偉業を、市民と共に顕彰する運動を展開します。
- 地域の宝を語り、広め、子どもたちにも伝える「ふるさとの達人」（100人）を委嘱します。社会の達人、語り部が主役の「地域ふくい塾」を開きます。
- ふるさとの自然、歴史に目を向けるため、子どもたちが地域の人たちと一緒に「里地、里山、里川マップ」を作成する運動を提唱、展開します。
- アウトドア活動や自然遊びの達人、ボーイスカウト・ガールスカウトのリーダーを「わんぱくアドバイザー」（100人）に委嘱し、SSTランドやリズムの森、ガラガラ山キャンプ場などで、子どもたちの先生になってもらいます。

○夢をはぐくむ、楽しい学校

個性と能力、豊かな心

学校は、家庭や地域とスクラムをしっかりと組みながら、次代を担う子どもたちを育てる教育の場として一層充実させることが大切です。

一人ひとりの個性や能力を最大限伸ばし、豊かな心を持った子どもたちを育成するため、教育環境を改善し、子どもたちが行きたくなる、楽しい学校づくりをめざします。

- 市長が各小中学校を訪問し、児童生徒と共に給食を囲みながら、自分の夢や希望、福井の未来を語り合う「市長の一日校長先生」を実施します。
- これからの時代、世界と直接、意思疎通ができる人材を養成することが重要です。まず、日本の文化と日本語を正確に話せる教育を行うことが必要です。そして、どの国の人とも対等なコミュニケーションができ、誇りをもって自分自身や福井を語れるよう英語教育を充実します。
- これまで培ってきた日中、日米など国際交流のきずなをしっかりと次世代に受け継ぎ、未来を担う子どもたちが国際人として羽ばたけるよう、国際理解教育を充実し、中学生の海外研修制度（毎年10人）を設けます。
- 子どもたちが日常生活において身近に伝統・文化、芸術に触れ、才能を磨き、発表する機会を増やすなど、子どもの芸術的才能を大きく伸ばす教育を重視します。
- 民間企業や海外等での経験が豊かな市民、県外において活躍している先輩を講師として学校現場に迎え、子どもたちの夢や希望をはぐくむ機会を増やします。
- 小さい頃から将来の生き方を考える習慣を身に付けられるよう、小中学校の活動に職場訪問や様々な仕事を学ぶ「福井キッズハローワーク」を取り入れます。
- LD（学習障害）など発達障害を持つ児童生徒の増加に対応するため、学校現場におけるコーディネーターの養成や専門カウンセラーの配置など、支援教育を強化します。
- 子どもたちが安心して学べるよう、早急にすべての校舎の耐震診断を実施し、改修に着手するとともに、トイレの改修、冷暖房の設置など快適な学校環境づくりを進めます。
- 地域や保護者の協力を得て、小学校のグラウンドを順次、芝生に張り替えるとともに、その維持管理作業を通じて、住民と児童との交流の場をつくります。

プラン実現のために

—— スクラム、オープン、改革 ——

○市民とスクラム

市民が主人公

地方分権が進む一方、行政の役割、民間の役割を問い直すべき時代ともなりました。

NPOやボランティアに新しい時代の兆しが見られますが、よりよい地域づくりを実現するためには、「地域のため」「人のため」に貢献しようとする市民の力を伸ばし、結集することが大切になります。

自らが考え、行動し、積極的に公共サービスを担う市民の活動を支援し、市民と行政がスクラムをしっかりと組むことにより、「市民が主人公」のいきいきとした福井市をつくります。

- 新たに市域が広がる新市のすみずみまで、「公平」で「安心」できる市政を徹底します。
- 市長室を開放して市民と直接対話する「市長室へようこそ」を実施します。
- 市長が各地域に出向き、各界各層の市民と直接まちづくりの方向性を話し合う「移動市長室」（年間50回）を実施します。
- 仕事、子育て、家事、地域活動など一人何役も担う女性の声をしっかり市政に反映させるため、女性と市長が昼食などを囲み気軽に語り合う「ふくい女性サロン」を実施します。
- まちづくり、地域づくりに大学や学生の知恵や活力を生かし、住民やNPO、ボランティア、地域団体と共に活動する民学協働「コミュニティカレッジ」の取組みを提唱、促進します。
- 市が行っている業務を市民やNPOに委託し、協働運営者として参画してもらう「行政パートナー制度」を導入します。

県・周辺市町とのスクラム

市町村合併が進み、また一方で、財政状況がたいへん厳しくなる中では、県や周辺市町との協調、協力が極めて大切です。

行政サービスの重複や空白が生じないように、心の通った連携に努めます。その中でお互いが切磋琢磨し、まちの魅力づくりを競いたいと思います。

- 県都としての誇りと自立の精神を持ちつつ、県と連携・協力して進めるべきものは緊密にスクラムを組んで市政を推進します。
- 周辺市町と「福井都市圏会議」を創設し、産業、観光、交通、環境など共通する政策に関してトップ同士が協議し、広域戦略を展開します。

○オープンな市政

活力みなぎる、ひらかれた市政を

市民本位の行政サービスを提供していくためには、可能な限りの情報を公開し、市民の意見を施策に反映させる透明な行政運営が不可欠です。「地域経営」の視点を持ち、効率的な行財政運営に努めます。

公的部門の民間開放については、公共サービスや市民生活の豊かさの向上につながるよう、市民と十分議論しながら着実に進めていきます。

「市民に何がもたらされたか」といった成果重視の行政サービスが提供できるよう、市職員の意識改革を一層進めるとともに、職員一人ひとりの創意工夫や意欲を十分に引き出し、オープンマインドで市民の期待にこたえられるような、明るく活力みなぎる市政をめざします。

- 情報公開を一層推進します。
- 様々な用件で市役所を訪れる市民や外国人が、スムーズに目的を果たせるよう、市役所の1階にワンストップサービスの総合窓口を設けます。また、障害者やお年寄りがいつでも気軽に市役所を訪れていただけるよう、総合窓口のサポート体制を整えます。
- 企画立案段階から政策形成に市民の声を反映させる「市民提案制度」を導入します。
- 客観的にマニフェスト（政策公約）の達成度を評価するため、市民を交えた外部委員会を設置します。
- 部長級の幹部職員は、民間会社では「執行役員」に相当する立場といえます。「自治体経営」の視点を徹底するため、市の部局長が仕事の目標や課題への対応方針を示した「部局長マニフェスト」を毎年発表します。
- 市長選の立候補予定者に十分な内部情報を提供する「マニフェスト支援条例」を導入します。
- 市議会とは、「二元代表制」の理念の下、常に適度な緊張関係を保ちながら、共に市民の代表者として市民本意の新しい市政を創造します。特に、市議会との関係で市民の不信感を招くことのないよう、職員倫理規定の理念を継承した「口きき防止条例」の制定を提案します。

○改 革

健全財政、効率的な市政を

日本経済は少しずつ明るい兆しが見えてきました。しかし、まだまだそれを実感することができません。また、国と地方の間では、「三位一体の改革」「社会保障制度の一体的改革」など、大きな変革のうねりが起こっています。

これ以上、市の財政をひっ迫させないためにも、一定の財源を確保するとともに、「選択と集中」により予算規模を適正化していくことが重要です。

このような時代であるからこそ、福井市は、確かな「眼」と「行政手腕」、そして「政治・経済のヒューマンネットワーク」を持つリーダーが必要であり、私が先頭に立ち、リーダーシップを発揮します。

- 行政のスリム化を一層推進するとともに、市役所にグループ制を導入するなど、能動的でフラットな組織体制にします。
- 管理職への女性登用を積極的に進めます。また、審議会などの女性委員の割合は4割以上をめざします。
- 予算規模の適正化など財政基盤を強化するため、具体的な数値目標を盛り込んだ市民との約束「健全財政計画」を18年度中に策定します。
- 納税者である市民の不公平感を解消し、安定的な財源を確保するため、市税の収納率を高めていきます。(収納率1%アップで約4億5千万円の収入増)
- ムダ・ムリのない財政運営のため、施策の成果、効果を検証しながら、経営感覚を生かした、決算重視の効率的な予算を編成します。
- 公共サービスの質の向上や財政支出の削減につなげるため、指定管理者制度の活用や官民競争入札制度の導入など、これまで行政が担ってきた分野の民間委託、民間開放を進めます。
- 優先度を見極め、「選択と集中」を行うためのマネジメントシステムを導入するとともに、現在の中期行財政計画を見直し、メリハリのある、そして投資効果が市民にわかる事業を展開します。
- 職員のマンパワーを最大限活用し、創意工夫を凝らした「ゼロ予算事業」を積極的に展開します。
- 協働意識の高揚など職員の意識改革を一層進めるため、職員による施策の「庁内コンペ」を実施し、総合的な政策推進につなげます。
- 地域に密着した物流や情報の拠点である郵便局のネットワークは、これからの公的サービスの重要な提供手段です。郵便局窓口会社と連携し、各種証明書の交付、災害時の協力、在宅福祉支援サービスをはじめとする様々な協力、支援体制づくりに取り組みます。